西宮市立中央病院後期臨床プログラム

～糖尿病・内分泌内科専門臨床研修医（後期レジデント）プログラム～

私たちの糖尿病・内分泌内科では、内科の一診療科として糖尿病診療と内分泌代謝疾患の診療を行っています。糖尿病学会専門医および内分泌学会専門医のどちらも取得することが可能な施設です。これらの領域は、専門医・指導医から指導を受け、専門医取得のために必須の臨床経験を積むことができます。現在の当科スタッフは大阪大学内分泌・代謝内科の出身です。後期研修を修了したこれまでの先輩たちは、当科でスタッフ昇格、大阪大学内分泌・代謝内科の大学院進学や関連施設への異動でキャリアアップしています。

施設認定

日本内科学会認定制度教育関連施設
日本糖尿病学会認定教育施設
日本内分泌学会内分泌代謝科認定教育施設
日本高血圧学会認定教育施設

◆糖尿病センターを中心とする糖尿病診療

糖尿病診療において、特に重要なのはチーム医療です。当院では最も古くからチームを結成して活動し、2009 年には糖尿病センター★1が開設されています。多職種で構成した糖尿病チーム★2を基本に、患者指導やケアに取り組みながら、入院・外来診療を包括的に行っています。いつでも、誰とでも相談・連携ができる点が当センターの特徴であり、そのような良好な臨床環境がチーム力を高めているのです。新しい後期研修医の先生は、まずチームの一員になります。どのような役割を担えるのかを考え、積極的にチームプレーしてくれることを期待しています。

★1 現在糖尿病センターでは、フットケア外来、透析予防外来、CGM 外来、看護指導外来を併設しています。

★2 糖尿病チームは、医師、日本糖尿病療養指導士、看護師（認定看護師 1 名含む)、薬剤師、管理栄養士、理学療法士、検査技師などのメンバーで構成されています。

外来診療と入院診療において、主治医や共観担当医として様々な症例を経験することができます。症例によって、どのような目標でコントロールするのか、いかなる手段を用いるのか、症例の背景や併発疾患の状況によって、異なってきます。同じ糖尿病でも、病態・評価、治療とケアの管理方針なども、本当に千差万別です。この点を適切に判断し、一人で方針を決定ができるようになることは、大切な研修目標の一つです。治療ガイドラインを読んで得られる知識だけでは実践応用が難しいですので、様々な症例を受

け持つ中で、指導を受けながら習得して欲しいと思います。後期研修後、いかなる専門施設においても通用する糖尿病の臨床感覚を身につけることができるよう指導していきます。

3 年間で、日本糖尿病学会糖尿病専門医試験に必要な知識を習得することを望みます。研修修了時には、糖尿病研修カリキュラムチェックリストを用いて、専門的な基礎知識、診察、専門的検査、治療、症例経験の項目に関しては、自己判定と指導医評価に基づき、到達目標の達成度を確認します。

糖尿病の併発疾患は多岐にわたります。合併症のうち、当院では特に冠動脈疾患や閉塞性動脈硬化症、糖尿病性足病変に関しては、循環器内科と皮膚科と協力して併診する機会が多いのも特徴です。是非後期研修医の先生には積極的に診療や治療にあたり、糖尿病診療の経験幅を拡げていってください。また私たちは糖尿病関連疾患のうち、骨粗鬆症や睡眠時無呼吸症候群、がん、NASH についても関心を持って診療にあたっています。このような領域の臨床研究にも関心を持って、参画してくれることを望んでいます。

◆内分泌代謝疾患の診療

市中病院では糖尿病患者数が多い一方で、内分泌疾患の患者数は多くはありません。当科でも、脂質異常症や高尿酸血症、骨粗鬆症を除くと、同様ですが、下垂体疾患、副腎疾患、カルシウム疾患、電解質異常では、日常診療で対応する機会が比較的よくあります。院内や院外からのコンサルテーションにおいても、専門性が求められています。

市中病院の内分泌代謝疾患の面白いところは、病名を想起し難い症例であっても、鑑別診断や理論的作業のプロセスを経て、発見や診断に至る点ではないでしょうか。鑑別診断が重要であり、〇病や●症候群といった内分泌疾患を疑うことができるかが大切なのです。疑えば、まずはスクリーニング検査を積極的に行います。イチローの打率のような割合で内分泌疾患にヒットすることは、市中病院の診療では無理です。ですから、スクリーニングは外れても全く構いません。（ただし根拠のある疑いに基づくものでなければなりません。）ヒットすれば、次に負荷試験を施行し、病態評価を吟味していくことになります。後期研修では、このような専門診療の醍醐味を是非味わってください。さらに内分泌疾患が面白くなることでしょう。

内分泌疾患の発見・診断には、Common disease と思っている症例でも大切に鑑別診断すること、そのためには内科医である診療スタンスがとても大切だと考えています。時に他診療科の疾患と思われる症例を受け持つこともありますが、それは予想外の内分泌疾患の発見のチャンスでもあり、そうでなくても一般内科の経験をさらに積む機会となるのです。将来総合内科専門医の取得の際に、役立つことでしょう。内科のそれぞれの診療科同士は、とても相談しやすい環境ですので安心してください。

また経験した内分泌症例は、きっちり症例をまとめて、学会発表するようにしましょう。当科では、糖尿病分野での症例報告や臨床研究のテーマでの学会発表も併せて積極的に学会参加に取り組んでいます。後期研修医は様々な発表機会がありますので、その都度当科スタッフ一同で熱心に指導します。

◆後期研修１年目のカリキュラム

１）外来業務：糖尿病内分泌外来の診療（週２日）を行う。
２）日勤内の搬送患者対応（週２回）
３）病棟業務：主に糖尿病内分泌代謝疾患の入院患者を受け持つ。また外科系手術の糖尿病患者や合併症・関連疾患の患者を共観する。
４）当直業務（個人別）
５）超音波検査（甲状腺、副甲状腺）（水曜日）
６）糖尿病教室：月１回参加し、２ヶ月に１回は講義を担当する。
７）症例カンファレンス（木曜日）
８） 糖尿病チームミーティング（木曜日）
９）抄読会：(隔週水曜日）
10）研究発表：受け持ち症例の症例報告、学会発表を行う。

◆当科の研修を修了した先輩医師

200○年：A 先生⇒日本生命済生会付属日生病院
201△年：B 先生⇒大阪大学大学院内分泌・代謝内科
201▽年：C 先生⇒大阪国税局診療所
201□年：D.先生⇒西宮市立中央病院糖尿病・内分泌内科
201□年：E 先生⇒大阪大学大学院内分泌・代謝内科

下記は後期研修を終了した１人からからの感想文です。

「3 年間、とても充実した後期研修となりました。主治医として、糖尿病、その他の内分泌疾患、また一般内科症例を担当し、地域に根差した医療を勉強することができました。週１回のカンファレンスでは、１つ１つの症例に対してしっかりと考察する場となります。その他に悩んだ場合も各科の垣根が低く、他科の先生へも相談しやすい環境があります。また、糖尿病は他職種からの関わりが大切であり、チームで患者様に携わる体勢が整っています。どのスタッフも意識が高く、多くのことを教えていだたきながらも、優しく話し合いやすいアットホームな雰囲気があります。その他、学会や研究会などの院外活動の機会も充実しています。丁寧な指導のもとで発表の準備を進めたことは、私にとって貴重な財産となりました。私は、当院で期待以上の研修ができ、有意義な 3 年を過ごすことができました。」

◆当科での後期研修に関心のある方は、気軽に問い合わせて下さい。糖尿病・内分泌内科部長が相談にのります。

糖尿病センターの皆がみなさんを待っています。
いっしょに勉強しながら、臨床や学術的な経験を積んでいきましょう！